授業科目	＊看護総合実習(長崎)					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	4	開講時期	通年
担当教員	長崎　恵美子						
授業概要	学生は、自己の将来を展望した総合的な実践能力を養うために各自の希望に沿って実習施設を選定し、自ら企画した実習計画書に基づいて、現場との調整を図りながら計画的・主体的に実習を展開する。実習を通して、自らの看護に関わる実践能力・教育力を評価し、今後の課題を明らかにするとともに、根拠に基づく実践を目指して看護を探求する姿勢・態度を養う。この一連のプロセスを実務経験を有する教員が個別に対応し、臨地と学生の調整を図りながら実習を展開する。						
授業形態	実習			授業方法	実習		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 看護実践及び専門領域における自己の課題を探求し、明確にできる。 2. 課題を解決するために、自ら企画した計画に基づいて現場との調整を図りながら、計画的・主体的に実践できる。 3. 実践の場において、対象となる人々を全人的に理解し、良好な人間関係を構築し、多職種と連携しながら、適切な看護ケア、教育を実践できる。 4. 計画を実践する中で、実践能力を高め、看護の質の向上に向けて、生涯、学習者として自己研鑽を続ける必要性を述べることができる。 5. 自らの実践を振り返り、客観的・科学的に看護および専門性を探求することができる。 6. 自己の看護観・教育観を明らかにし、看護専門職としての自覚を高め、自己の将来像を展望できる。
理想的レベル	1. 看護実践及び専門領域における自己の課題を探求し、明確にできる。 1)4 年間で学び得た専門知識・技術をどこまで活用できたか、何ができて何ができなかったか、自分に不足しているものは何かを 確認し、自己の学習到達度を評価することができる。 2)客観的な自己の振り返りの過程で、自らの今後の課題を明らかにすることができる。 2. 課題を解決するために、自ら企画した計画に基づいて、現場との調整を図りながら計画的・主体的に実践できる。 3. 実践の場において、対象となる人々を全人的に理解し、良好な人間関係を構築し、多職種と連携しながら、適切な看護ケア・教育を実践できる。 4. 計画を実践する中で、実践能力を高め、看護の質の向上に向けて、生涯、学習者として自己研鑽を続けることの必要性を述べることができる。 5. 自らの実践を振り返り、客観的・科学的に看護及び専門性を探求する。 6. 自己の看護観・教育観を明らかにし、看護専門職としての自覚を高め、自己の将来像を展望できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	30%	
その他	70%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31408J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
臨地における指導者の助言を受けながら、学生自ら必要な課題に取り組む。	0

授業計画	
第 1 回	1. オリエンテーション 　看護総合実習は 4 年間の学びの集大成の実習と位置付けられる。本実習は学生が主体的に r 臨地における実習を展開していく授業であること及び実習の目的・目標、達成の目安、評価の内容と方法を説明する。 2. 学生は、各自の希望に沿って実習施設を選択・決定する。 3. 各自が企画した「実習計画書」に基づき、実習受け入れ先との個別の交渉・調整を図りながら、主体的に臨地実習を展開する。 4. 看護総合実習中の学習活動は、すべて学生が主体的に計画・実施することを原則とする。実習内容の調整や実習の進め方など、具体的な学習活動の一切を学生が各自で企画・立案し、学生グループ間で調整しながら行う。 ※看護学実習要項を参照すること ※学内実習に変更となった場合、病院関係等の外部講師等に協力を得ながら実習を展開する。
テキスト	指定なし。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	主体的に必要な文献等を探索する。
課題に対するフィードバックの方法	各領域の評価は、個人面接によりフィードバックする。
学生へのメッセージ・コメント	これまでの臨地実習・演習における既習内容・看護実践を振り返り、必要な事項を学習しておくこと。 学習活動は、すべて学生が主体的に計画することを原則としていますので、自らが積極的に学習し、グループ間で課題を共有し、討議・検討を進めていただきたい。 社会に出て活躍できる看護職者としての実践能力、人間力を養うために、主体的な学習を期待します。